

T 先生のこと

また体罰のニュースがTVに流れていた。

中学の教師が生徒の態度が悪いとして、ビンタをしたところ、鼓膜が破れていたという。

これとは逆に最近では生徒に殴られる教師というのも時々話題になっている。

言うことをきかない、ムカつく・・・様々な理由で繰り返される体罰。こんなニュースを耳にするたびに高校時代のT先生のことを思い出す。

古文の担任だった。どちらかというと風采のあがらないタイプでもの静かな先生だった。

定年を目前にされていた。

古文の授業というのは地味で解りにくく、大半の生徒にとって退屈なものである。最初はおとなしくしていた我々生徒の間に、少しずつ私語が飛び交うようになってきた。それでもT先生は何も言わない。授業時間のあいだ、ずっと黙々と難解な古文の解説を続けていた。

授業の回数が増えるにつれ、一部の生徒だけだった私語がだんだんと増えて、教室の雰囲気がいよいよだらしな感じになっていった。

次の授業までにやっておくようにと先生が出す宿題の提出物を怠ける連中も多くなってきた。私もその一人だった。

授業開始時に宿題をやってきた者に挙手をさせていた先生は、挙手の数が次第に減っていくたびに何ともいえない寂しげな笑みを浮かべた後、チョークを黒板に走らせていた。

我々は以前にも増して遠慮のない私語をするようになっていった。

夏休みを前にした頃だったと思う。とうとう宿題の挙手が1割にも満たなくなり、しかもまじめに手をあげた者をちゃかすヤジまで飛んだ。

そのとき、先生は例の静かな声でポツリと言った。「皆さんは僕の授業をどうも満足して聞いてくれないようですね・・・皆さんが悪いのではなく、僕に力量がないからだ

と 思 い ま す 。 今 か ら 、 僕 は 教 師 と し て の 僕 に
体 罰 を 与 え ま す 。」
言 い 終 わ っ た 先 生 は 、 教 科 書 を 教 壇 に 置 く
や い な や 、 両 の 平 手 で 思 い っ き り 自 ら の 頬 を
叩 き 始 め た 。
パ ン 、 パ ン 、 パ ン 、 パ ン 、 パ ン ・ ・ ・ ・ ・
・ ・ 手 加 減 の 一 切 な い す さ ま じ い ビ ン タ だ っ
た 。 先 生 の 眼 鏡 が 吹 っ 飛 び 、 ふ だ ん 青 白 い 頬
が た ち ま ち 真 っ 赤 に 腫 れ た 。
自 分 で 自 分 に ビ ン タ を あ び せ る と い う 情 景
は 、 こ の 文 章 を 読 ん で も ピ ン と こ な い か も し
れ な い 。 わ か る の は 、 あ の 時 あ の 教 室 で 目 撃
し た 我 々 四 十 数 名 の 生 徒 だ け だ ろ う 。
我 々 は う つ む い て い た 。 教 室 に ビ ン タ の 音
だ け が 長 く 響 い て い た 。 本 当 に 長 く 感 じ ら れ
た 。 ひ た す ら 目 の 前 で 起 っ て い る 信 じ ら れ な
い 光 景 が 早 く 終 わ っ て ほ し い と 願 っ て い た 。
や が て 自 ら へ の 体 罰 を 終 え た 先 生 は 落 ち た
眼 鏡 を か け 、 黒 板 を 向 き 直 り 、 何 事 も な か っ
た か の よ う に チ ョ ー ク を 走 ら せ 始 め た 。 真 っ

赤に腫れた頬以外は普段のままの先生だった。
声の乱れも全くなかった。く
その次の授業から、宿題をして来ない者は
全くいなくなかった。私語も無くなった。
・ ・ ・ ・ ・
ＴＶの青春ドラマではよく「愛情としての
体罰」が描かれている。感情ではなく理性で
行う体罰は教育の一環だという意見もよく聞
く。私はそうは思わない。叩かれれば痛い。
痛みを与えた者に服従したとしても、それは
威嚇による服従だと思う。理性的に叩くなん
ていうのは論外で、そういう人物は教師どこ
ろか、人間以外の氷のような無機的な心を持
った存在だと思う。
そして何より・ ・ ・体罰を与える者たちは
気づいていない。相手が自分の言うことに従
わない原因の大半が実は自分にあることに。
生徒という絶対に反抗できない存在に対して
手をあげるというのは、単なる暴力でしかな
いということに。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生 | 徒 | 、 | 部 | 下 | 、 | 子 | ど | も | と | い | っ | た | 目 | 下 | の | 存 | 在 | を | | |
| 叱 | る | 必 | 要 | が | あ | る | と | き | 、 | 相 | 手 | を | 変 | え | る | の | は | 難 | し | |
| い | が | 自 | 分 | が | 変 | わ | る | の | は | た | や | す | い | と | い | う | 気 | 持 | ち | |
| を | 持 | ち | 続 | け | た | い | も | の | だ | と | 思 | う | 。 | 私 | の | 気 | 持 | ち | の | |
| 裏 | に | は | 、 | T | 先 | 生 | の | あ | の | 時 | の | 光 | 景 | が | い | つ | も | あ | る | 。 |
| 私 | は | 、 | あ | の | 事 | 件 | 以 | 来 | T | 先 | 生 | の | 古 | 文 | の | 授 | 業 | に | | |
| し | だ | い | に | の | め | り | こ | む | よ | う | に | な | り | 、 | い | に | し | え | の | |
| 人 | た | ち | が | 残 | し | た | 様 | 々 | な | 記 | 録 | や | 、 | 古 | い | 石 | 碑 | な | ど | |
| に | 彫 | ら | れ | た | 古 | 代 | の | 文 | 字 | に | 強 | い | 興 | 味 | を | 覚 | え | る | よ | |
| う | に | な | っ | て | い | っ | た | 。 | い | ま | 、 | ブ | ラ | リ | と | 旅 | に | 出 | て | 、 |
| 各 | 地 | の | 神 | 社 | 仏 | 閣 | の | 由 | 来 | や | 博 | 物 | 館 | の | 陳 | 列 | 物 | に | 見 | |
| 入 | る | と | き | 、 | あ | の | 時 | の | T | 先 | 生 | の | こ | と | を | 思 | い | 出 | す | 。 |
| そ | う | い | え | ば | 、 | 映 | 画 | 「 | ち | は | や | ふ | る | 」 | の | よ | う | に | | |
| 宮 | 崎 | 市 | 内 | で | も | 高 | 校 | 対 | 抗 | の | 百 | 人 | 一 | 首 | 大 | 会 | が | 開 | か | |
| れ | て | い | る | 。 | 私 | は | こ | の | 伝 | 統 | あ | る | 大 | 会 | の | 第 | 一 | 回 | の | |
| 出 | 場 | メ | ン | バ | ー | の | 一 | 人 | で | あ | る | 。 | T | 先 | 生 | の | 強 | い | 勸 | |
| め | で | 出 | 場 | し | た | が | 、 | 相 | 手 | の | 高 | 校 | の | 女 | 子 | 生 | 徒 | に | コ | |
| テ | ン | バ | ン | に | さ | れ | た | 思 | い | 出 | が | あ | る | 。 | | | | | | |
| T | 先 | 生 | に | は | 、 | 結 | 局 | 高 | 校 | 卒 | 業 | 以 | 降 | 一 | 度 | も | お | 会 | | |
| い | す | る | 機 | 会 | が | な | か | っ | た | 。 | | | | | | | | | | |